

アベノマスクという愚策

写真は朝日新聞 4 月 3 日朝刊。「腹案」布マスク集中砲火、官僚提案「国民の不安パッと消える」という大きな見出し。新型コロナウイルスの感染拡大防止をめざし、安倍晋三首相が表明した全世帯に布マスク 2 枚を配布する施策に疑問の声が上がっている。1 枚あたりの単価は 200 円程度。配達費用も含め単純計算で数百億円かかるとみられる。再来週以降、日本郵便の配達システムを活用し、5 千万余りの全世帯に配る。



実はこの構想は 1 カ月以上前から首相官邸内で浮上していた。「全国民に布マスクを配れば、不安はパッと消えますから」。首相にそう提案したのは、経済官庁出身の官邸官僚だった。新型コロナウイルスに関して、世界保健機関(WHO)は布製マスクは「推奨しない」としている。布製マスクは表面の穴が、一般的な使い捨てマスクに比べて大きく、ウイルスを止める効果が科学的には確認されていない。

東京新聞 5 日の前川喜平「本音のコラム」は、アベノマスクという愚策と題し、こうした施策を厳しく批判している。

安倍首相は全国 5 千万世帯に布マスク 2 枚を配布すると表明した。恐るべき愚策だ。「マスク需要に対応する上で極めて有効」と首相は胸を張るが、3 日本紙夕刊は「アベノマスク」と揶揄されていると報じた米メディアを紹介していた。総額数百億円。あまりにもったいない税金の使い方だ。医療体制の整備とか休業補償とかももっとましな使い道はいくらでもある。

3 日の朝日新聞によると、この策は「経済官庁出身の官邸官僚」が「全国民に布マスクを配れば、不安はパッと消えます」と発案したのだという。首相にこんな「英断」をさせられるのは、今井尚哉首相秘書官しかいない。2 月 27 日の突然の「全国一斉休校要請」も彼の発案だった。

今井氏や首相の最大の関心事は国民の健康ではなく政権の支持率だ。耳目を引く策を打ち出し、手なずけたマスメディアや SNS を駆使して「世論」を作り出せば、愚策も「英断」となり、支持率は上がる。森友・加計問題、詩織さん事件、統計不正、桜を見る会、検察人事など数々の腐敗もそうやって糊塗してきた。「どうせ国民は愚かだ。いくらでもだませる」と見くびっているのだ。

しかし、アベノマスクはあまりにひどい。こんな子供だましでだませるほど国民は愚かだと思っているのなら、今井さん、安倍さん、それは考え違いというものだ。

前川さんらしい鋭い指摘だ。アベノマスクという愚策に象徴される、安倍政権を注視したい。図書館で東京新聞を読めないのに、フェイスブック仲間の投稿に感謝している。

(2020年4月6日)